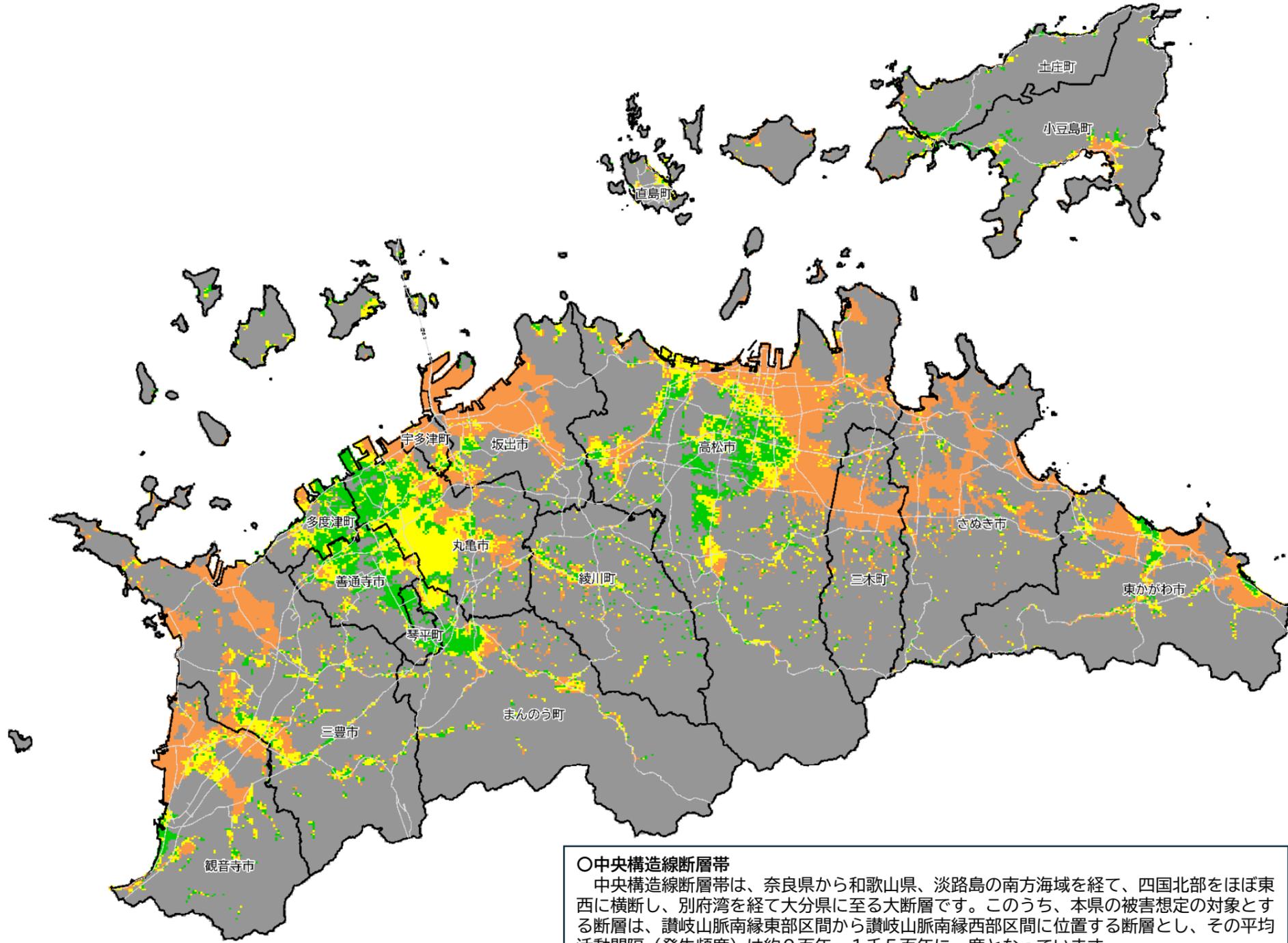


香川県液状化危険度予測図（中央構造線断層帯）



- 危険度A
(液状化危険度はかなり高い)
- 危険度B
(液状化危険度は高い)
- 危険度C
(液状化危険度は低い)
- 危険度D
(液状化危険度はかなり低い)

液状化の危険度がどの程度であることを示しています。

- この液状化危険度は、液状化現象の発生を予測する一定の目安であり、危険度が高い地域であっても、全てが必ず液状化するというものではありません。
- 危険度が高い地域では、重要な構造物等を設計する際に、液状化に関する詳細な調査及び対策をする必要があるとされています。
- 液状化により道路に段差が生じたり、砂や水などが噴出し、避難の妨げになることがあります。
- 液状化による被害も考慮し、揺れがおさまったら、速やかに避難を開始しましょう。

○中央構造線断層帯
 中央構造線断層帯は、奈良県から和歌山県、淡路島の南方海域を経て、四国北部をほぼ東西に横断し、別府湾を経て大分県に至る大断層です。このうち、本県の被害想定の対象とする断層は、讃岐山脈南縁東部区間から讃岐山脈南縁西部区間に位置する断層とし、その平均活動間隔（発生頻度）は約9百年～1千5百年に一度となっています。
 この震度分布図は、中央構造線（讃岐山脈南縁東部区間と讃岐山脈南縁西部区間の連動）の断層モデルとして国が示した4つのモデルのうち、本県に影響の大きいモデルによる震度を示したものです。

